

# 第3学年算数科学習指導案

日時 平成16年10月21日(木)  
第5校時  
場所 年組教室  
授業者 濱田理恵 瀬木紀彦

## 1、単元名 あまりのあるわり算

## 2、単元の目標

- (1) あまりのあるわり算の計算の仕方を知り、日常生活の中で積極的に使っていこうとする意欲を持つ。
- (2) 乗法九九を1回適用する乗法(包含除、等分除)で、あまりのある場合の意味とその計算方法について理解する。
- (3) 除法のあまりの意味や、あまりの除法の大小関係について理解する。
- (4) あまりのある除法の確かめ方を、具体的な場面に基づいて理解する。
- (5) あまりのある除法を適用する場面で、あまりの処理のしかたを理解し、問題を解決することができる。

## 3、指導の立場

### 単元について

本単元は「わり算」の学習を受け、あまりのある除法を扱っていく。ここでは、除法の意味から、「あまりはいつも、わる数より小さい」ことをしっかりつかませることが大切である。その上で、答えの確かめ方を学習し、あまりのあるわり算の計算処理力を高めていきたい。また、あまりの処理の仕方も、問題場面によって違うことをつかませ、理解させていきたい。

本単元の学習内容は、次学年で学習する「2けたでわる計算」の、乗法九九を二回以上用いて計算処理する除法や、除法筆算の基礎的、基本的事項となるものである。具体場面での「あまりのあるわり算」の意味を十分に理解させ、場面に応じて活用できるようにしたい。

問題提示では、できるだけ課題解決の必然性を持たせ、子どもたちが具体的にイメージを持ちやすくすることと、意欲的に課題に向かえるようにすることに留意したい。そして、自分の考えをペアに分かりやすく発表しようとする中で、自分の考えに自信を持たせるようにし、全体交流での発表につなげていけるようにしたい。聞き手は、相手の考えを受け止め、うなずいたり、疑問を持ったりしながら聞くことで、視野を広げることを大切にしたいと考える。

全体発表では、ペア発表とし、子どもたちにも、ペア交流の必然性を持たせたい。

### 本時について

本時は、「あまりのあるわり算」の第5時間目で、「あまりの処理の仕方」を考える時間である。言わば、今まで脇役だったあまりが、主役となる授業である。あまりの扱いに困惑する児童が多くだと予想できる。そのため、まずは子どもたちに、問題のイメージをしっかり持たせることが大切である。問題は、子どもたちが、より課題解決の必然性を持てるように、生活と密着した、リコーダーの整理箱の問題にした。そうすれば、どの子も意欲的に課題に向かえると考えたからである。

あまりの処理の仕方を、式だけで考えるのではなく、おはじきや、図を用いて考える方法も価値づけ、自分の考えを仲間にわかりやすく伝えることを大切にしていきたい。

前の人や、図と式のつながりを考えていくことも大切にしたいと考える。

### 児童の実態

男子 名、女子 名のクラスである。全体として、とても元気のよいクラスであるが、その元気が、課題追求に向かわず、違った方向に出てしまう子もいる。そのため、課題追求に必然性を持たせ、意欲的に課題解決に向かえるようにし、集中して授業に向かえる力を高めていきたい。

1学期の「3けたの計算」では、多くの子が、自分の考えを、式や文、図でノートに書くことができるようになった。しかし、自分の考えを、ペアや全体に伝える力、意欲は、ともに弱く、個人追求で学習がとまってしまう児童が多い。全体発表でも、自分の考えを発表するだけで、前の人とつなげて話す力はない児童が多い。

交流を意欲的に行えるようにするための手立てとして、掲示物で、ペア交流や全体交流の、めざす姿を位置付け、自分がどのレベルに達しているのか、そして、次にめざす姿はどんな姿かを明確した。毎時間「ペア交流賞」「発表名人賞」を表彰し、「自分も、交流名人、発表名人になりたい!」と意欲をもてるようにした。

さらに、全体交流の前に、ペア交流を位置付け、自分の考えをペアの子に話すことで、全体交流でも自信を持って発表できるようにしたいと考える。全体発表の形態も、ペアでの発表とした。そうすることで、ペアの相手の発表を援助できるように、相手の意見をただ聞くだけでなく、自分の考えとどこが同じで、どこが違うのか考えながら聞くことができるようになると思ったからである。その結果、発表者の意見に対して、「分からないので、もう一回言って下さい。」「その図の意味は、今行ったことと違うと思うよ。」など、反応しながら聞く力がつきつつある。さらに、全体発表のときに、図や式とつなげて話したり、前の子の考えとつなげて話したりする力につながっていくよう援助していきたい。

#### 4. 研究主題に関わって

### ひとり歩きができる子が育つ授業の創造 ～考えを伝え合って学び深める子を願って～

#### 目指す子どもの姿

進んで仲間と関わりながら様々な方法で学習する事により、自分の考えの足場をしっかりとったり、考えを広げたりする子

- ・ 自分の考えを図、式、言葉などを使ってノートに表現できる。
- ・ 自分の考えを、相手を意識しながら仲間に伝える事ができる。
- ・ 仲間の考えを、うなずいたり疑問をもちながら聞くことができる。
- ・ 仲間の考えの良さに気付き、自分の考えの中に取り入れる事ができる。

#### 《単元において》

	つきたい力	手立て
考えの足場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題解決の必然性を実感し、問題に真剣に取り組むことができる。</li> <li>・ 自分なりの方法で課題を解決できる。</li> <li>・ 自分の考えを持ち、まとめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題設定の場で、生活に密着した具体物扱う問題にする。</li> <li>・ つまずきを予想し、そのための手立てを考えておく。</li> </ul>
伝え合う場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話し手は、聞き手を意識し、自分の考えを伝えることができる。</li> <li>・ 聞き手は、発表者の考えに反応しながら聞くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手を意識し、区切って話している子を価値付ける。</li> <li>・ 話し手を意識し、うなずいたり、聞き返したりする聞き方を価値付ける。</li> <li>・ 掲示物でめざす姿を明確にする。</li> </ul>

《本時》

	つけたい力	手立て
考 え の 足 場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決の必然性を実感し、問題に真剣に取り組むことができる。</li> <li>・自分なりの方法で課題を解決できる。</li> </ul> <p>図や式、おはじきを使って自分の考えをノートにまとめる。</p> <p>ペアや全体に伝わるように、自分の考えを整理できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リコーダーの整理箱という、生活に密着した問題にする。</li> <li>・つまずきを予想し、そのための手立てを考えておく。</li> </ul> <p><b>求答でのつまずき</b></p> <p>問題を噛み砕いてやり、わり算であることに気づかせる。(T2)</p> <p><b>立式でのつまずき</b></p> <p>あまりがあるわり算かどうか考えさせ、九九の表から考えさせる。(T2)</p> <p><b>あまりの処理でのつまずき (T1中心)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・答えを8としている子 「どうして8になったの？」と声をかけ、図や式を自分の言葉で話せるようにして、考えをノートにかけるようにする。</li> <li>・答えを7としている子 「箱が7こだと、リコーダー何本入るかな？」と声をかけ、あまりの3本文が入らないことに気付かせ、3本分はどうするのか問いかける。</li> <li>・「7箱とあまり3本」としている子 「箱は何箱いるの？」とこえをかけ、3本分をどうするかに着目させる。</li> <li>・答えを10としている子 「おはじきで考えてみようか」声をかけ、操作しながら考えるようにアドバイスする。</li> </ul> <p>のでつまずきについては追求の過程のアドバイスを中心とする。</p>
伝 え 合 う 場	<p><b>ペア交流</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し手は、聞き手を意識し、自分の考えを伝えることができる。</li> <li>・聞き手は、発表者の考えに反応しながら聞くことができる。自分の意見と比べながら聞くことができる。</li> </ul> <p><b>全体交流</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えの足場をはっきりさせて話せる。</li> <li>・ペアの相手の発表を理解して、しっかり援助できる。</li> <li>・発表者の意見に反応しながら聞くことができる。</li> </ul>	<p><b>ペア交流</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うなずきながら聞いている子、相手を意識して区切って話している子を価値付ける。(T1)</li> <li>・相手の意見がわかったか自分の言葉でも話せるか確認する。(T1)</li> <li>・話し合いがうまく言っていないペアに声をかけ、援助する(T2)</li> </ul> <p><b>全体交流</b></p> <p>式や図の考え方で、同じところはないか問い返す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「図と式で同じところはないかな？」</li> <li>・「7 + 1の+ 1って、何をたす1したの？」(7 + 1で、なにが+ 1なのか考えさせ、図とつなげる。)</li> <li>・実際にリコーダーを入れてみて、箱が8個必要なことを子どもたちに明確に分かるように説明する。</li> </ul>

## 研究の視点

考えの足場をもたせるための手立ては有効であったか

自分の考えを伝える事ができていたか。(ペア、全体)また、そのための手立ては有効であったか。